

# 私の名前を 知りませんか？

大和高田市立高田小学校、玄関を入ったところのガラス戸棚に、私はいます。名前がわからないので、「青い目の人形」と呼ばれています。

私が誰なのか、どうしてここに  
いるのか、話をきいてくれますか。



## 生まれは…

1881(明治14)年、日本はハワイと移民契約を結び、日本人の本格的なハワイへの移民が始まりました。当時の日本には、増大した労働力を吸収できるだけの市場がなかったため、移民が盛んでした。その後1898(明治31)年、ハワイはアメリカの一部となります。1900(明治33)年代になると、ハワイより賃金のよいアメリカへ移住する日本人移民が急増します。

日本人は、有能で、低賃金でもまじめに働いたのですが、経済力を付けアメリカ人の職場を奪うこともあり、反日感情が高まります。文化的な誤解や偏見、人種差別があつたことも否定できません。その後、第1次世界大戦が終わり、アメリカ兵が帰国すると、戦後の不況もあり、日本人移民への風当たりは一層強くなります。

そんな時、日本に25年住んでいた宣教師のシド・T・ルイス・ギョリック博士は、「世界の平和は子どもから」をスローガンとする「世界児童親善会」の主力メンバーとして、この状況を両国民相互の理解と親善により好転させたいと考えました。そこで日本の伝統行事である雛祭りに向け、日本に人形を贈ることを提案しました。そして、アメリカ全土に向けて協力を募る「人形委員会」が設立されました。同時に日本側では、ギョリック博士と親交の深かつた渋沢栄一氏が国に働きかけ、「日本児童親善会」を設立し、人形を受け入れることになりました。

## 「友情人形」到着

1927(昭和2)年1月から3月にかけて、「友情人形」12、375体が横浜港や神戸港に到着しました。入国した人形はすべて、「世界児童親善会」の人形旅行局発行のパスポート、ビザ、汽車の片道切符、着替えを持っていました。日本へ行っても人形たちが不自由でないようにとの、アメリカの子どもたちの思いやりが感じられます。(子どもたちは、自分の持っているお人形を友情人形として日本へ送り出しているのです)そして、3月3日雛祭りの日、明治神宮外苑にある日本青年館で歓迎式典が盛大に行われ、各都道府県の小学校や幼稚園に配布されました。おそらく関西では、神戸港に着いた人形たちが配布されたと思われれます。

奈良県では

奈良県には、144体が大阪経由で贈られました。1927(昭和2)年、3月3~5日、奈良図書館で展示会が開かれたそうです。同年4月10日、高田小学校では、新築記念教育展覧会を開き、その場で、青い目の人形の歓迎会が開かれ、5月19日に「伝達式」が行われました。

「伝達式」に参加したことは、御所市立葛小学校沿革誌や、五條小学校沿革誌にも、高田小学校へ人形を受け取りに行った記述があります。

大和高田市では

「高田小学校沿革誌」に、昭和2年5月19日 米国ヨリ寄贈人形ノ配布ヲ受ク 本校 吉 幼稚園 吉とあります。

「高田小学校100年史」にも記録があります。これが、私です。



昭和2年 米国寄贈の人形(高田小)  
「高田小学校100年史」より

年月日	こと	が	ら
2.4.27	幼稚園誌デー		
2.5.5	様の会開催する。		
2.5.19	米国寄贈人形歓迎会を校庭でする。		
2.8.1	(土曜、松原村、高田町に編入)		

破壊された「青い目の人形」たち

1931(昭和6)年 満州事変  
1937(昭和12)年 日中戦争  
1941(昭和16)年 第2次世界大戦始まる  
小学校は国民学校と名称を改め、教育指針にも軍国主義の色彩が濃くなりました。

1943(昭和18)年頃になると、世情は緊迫し、「青い目の人形」は焼却処分になったり、校庭で竹槍で突かれたり踏んだりした、という話が残っています。

でも、私は今も高田小学校にいます

アメリカの友だちの心がこもった人形、子どもたちにも親しまれていたので処分するにはしのびないと、私は戦争中も高田小学校の校長室に保管されていました。パスポートも残っていないので名前はわかりませんが、着替えも、残っていません。白からクリーム色に変色した手編みのカーディガンをずっと着ていました。



1996(平成8)年8月、かつてのお礼に、日本からアメリカへ贈られた人形「ミス奈良」の帰国展で、アメリカ・アイダホ州立歴史博物館のスワソン館長が、私たち「青い目の人形」の傷んだ洋服を見て、今着ている花柄、ブルーのドレスとラルマ、帽子をくださいました。同年10月21日朝の全校集会で、児童会のメンバーが着替えさせてくれました。

最近、夏休み中の8月6日、平和学習の日に、以前高田小学校の校長先生だった中尾勝一さんが、児童たちに私の話をさ



最初に着ていた、帽子や靴

「友情人形」がなぜ「青い目の人形」に？

当時「友情人形」を迎えるにあたり、「人形を迎える歌」がつくられました。しかし、大正10年に作られレコード化された、人形をかわいがる娘を見て作った野口雨情の童謡「青い目の人形」の歌詞がアメリカから贈られ一人ぼちでやってきた人形の身の上に重ねられ、人々の共感をそそいだのでしょうか。「友情人形」が「青い目の人形」と呼ばれるようになったのでしょうか。「友情人形」を贈る話は全くなく、「友情人形」はこの童謡と全く関係はないのです。

## 奈良県にいる、私のお友だち

いま、日本全国で約300体の「青い目の人形」が残っています。

奈良県内では、宇陀市教育委員会にある「マーガレット」、御所市立葛小学校の「ローズ」、五條市の賀名生の里歴史民俗資料館の「パトリ」、そして私。

### 「マーガレット」

昭和60年、当時の榛原町立伊那佐小学校の物置で赴任してきた教頭先生が発見しました。

当時の鍵の付いたケースに入っています。箱書きに「昭和3年6月あめりか人（後不明）と書かれています。衣装も、当時の下着洋服、靴下、靴が残っています。現在は、教育長室に飾られています。



どなたか、私の名前や  
当時のこと  
覚えていませんか？

### 「ローズ」

最初、御所市内の戸毛小学校に配布されました。昭和2年7月28日、歓迎の音楽会が開催されています。

その後学校の合併があり、現在葛小學校に引き継がれています。名前は、昭和2年に書かれた生徒の作文から判明。昭和21年頃、戸毛小學校の文房具店に預けられていたのを、生徒全員で出迎えたそうです。



### 「パトリ」

昭和29年PTA役員の内内さんが、子どもたちと物置小屋で炭俵の中から見つけました。戦時中処分できずに誰かがこっそり隠したようです。昭和2年当時のことを、辻内さんはこのように話したそうです。

「校長先生が見せてくださり、抱き起こすと「マー」とした。すばらしい衣装のパトリは、香水瓶をいくつも持ってきていた。物置で見つけたパトリは、抱き起こしても「マー」とはいわず、涙が出ました」

特製の人形ケースを作ってあげたそうです。現在は、賀名生の里歴史民俗資料館に陳列されています。

